

Though weddings in many parts of the world / still **continue** to be **rituals** / [that reflect ethnic, cultural, and social backgrounds], / **contemporary** weddings **incorporate** more meaningful customs / **<better suited** to today's values>.

逆接 S' V' C' 関係代名詞 S V O 過去分詞の修飾

内容Check!

問 次の各文が正しければ () に○を、誤っていれば×を記入しなさい。

1. It is considered unlucky for a bride to enter her new home left foot first. ()
2. American people were the first to throw rice or flowers at the newly married couple. ()
3. Today's weddings combine traditional aspects and new customs. ()

覚えておきたい表現

同格を表す of

ℓ.4 : The custom **of throwing** rice or flowers at the newly married couple to wish them fertility and prosperity originated in Asia and later became popular in America. 「米あるいは花を、新婚の2人に、多産と繁栄を願うために投げるといった慣習は、アジアで始まって、後にアメリカで一般的になった。」

・idea「考え」やbelief「信念」などの語の後に of + (動)名詞を続けてその具体的な内容を示す場合、ofの前にくる名詞と of以下は同格の関係にある。

Ex. I have the idea **of having** lunch in the garden today. 「今日は、庭で昼食を取ろうと思っています。」

It is considered + C (形容詞) + to do 「…するのは～だと考えられている」

ℓ.7 : At a traditional Japanese wedding, **it is considered unlucky to** use words like “cut”, “separate”, or “leave”. 「伝統的な日本の結婚式では、『切る』『離れる』、あるいは『去る』といった言葉を使うことは、縁起が悪いと考えられている。」

・この文の it は形式主語、to use 以下が真の主語。これは、元は consider + O + C 「OをCと考える」のOが主語になった受動態の形 S is considered C 「SはCと考えられる」。このSの位置に形式目的語のitを置いてCの後に真の主語の不定詞を置いたのが、見出しの It is considered + C + to do 「…するのは～だと考えられている」である。

Ex. **It is considered rude to** pick up a bowl in Korea. 「お椀を持ちあげるのは韓国では無作法だと考えられている。」

分詞を修飾する副詞

ℓ.9 : Though weddings in many parts of the world still continue to be rituals that reflect ethnic, cultural, and social backgrounds, contemporary weddings incorporate more meaningful customs **better suited** to today's values. 「世界の多くの地域における結婚式は、依然として民族的、文化的そして社会的な背景を反映する儀式であり続けているが、現代の結婚式は、今日の価値観により適した、より有意義な慣習を取り入れている。」

・名詞を修飾する過去分詞句中の過去分詞(本文では suited)を副詞(本文では better)が修飾する場合、副詞は分詞の直前に置かれる。

Ex. The piano **carefully checked** by Mr. Marshall has a good sound. 「マーシャル氏に注意深く点検してもらったピアノはとても良い音がする。」

整理しよう! *段落要旨・構造*

1 信仰・慣習が結婚式に影響を与える例

例: 多くの文化…結婚式の後、新郎が新婦を抱えて新居の敷居を越える。

アジア …多産や繁栄を願って、米や花を新郎新婦に投げる → 後にアメリカで広まった。

日本 …結婚式では「切る」、「離れる」などの言葉は不吉。

2 まとめ

結婚式は、民族的・文化的・社会的背景を反映する儀式。

◆ ℓ.9 **Though** 「しかし: 逆接」

現代では、今日の価値観により合った、より有意義な慣習を取り入れている。

背景知識

●現代の結婚式の慣習

結婚式の慣習は国によって多種多様であるが、ブライダル産業の企業戦略も手伝って、海外から現代日本の結婚式に取り入れられつつあるものも多い。本文に出てくる、新婚の2人に米や花を投げるという慣習もその1つで、ライスシャワー、フラワーシャワーと呼ばれ、日本でもよく見るようになった。米は子孫繁栄の象徴で、ライスシャワーには人生の豊かさや子宝に恵まれることを願うという意味が、フラワーシャワーには、花の香で清めて、新婚の2人の幸せをねたむ悪魔から守るという意味が込められている。

また、something fourという言葉も、最近よく聞かれる。結婚式に4つのものを花嫁が身につけると幸せになるというもので、欧米では一般的で、イギリスの『マザー・グース』の中の歌にその由来がある。身につけるものとは something old (何か古いもの)、something new (何か新しいもの)、something borrowed (何か借りたもの)、something blue (何か青いもの) の4つである。「古いもの」は祖父母や両親から受け継いだものを、「新しいもの」はこれから始まる新生活を表す。また、「借りたもの」は何かを借りることで、幸せを分けてもらうという意味を、「青いもの」は花嫁の純潔を表すとされている。

一方、日本で一般的に行われているお色直しであるが、これは日本だけの慣習である。お色直しは、古くは白一色の白無垢から、嫁ぎ先の用意した色打掛に着替えていた武家の慣習に由来する。これには結婚して相手の家に染まるという意味が込められている。

現代の結婚式の衣装や慣習も歴史をたどってみると、それぞれの国や時代の背景や意味が込められていて興味深い。

深めたい人に: 石井研士『結婚式 幸せを創る儀式』(NHKブックス, 2005年)、斎藤美奈子『冠婚葬祭のひみつ』(岩波新書, 2006年)